

2022

JAN. 1 vol.51

東京成徳広報



東京成徳大学深谷高等学校卒業生でパラリンピック日本代表の高桑選手（NTT 東日本所属）に高校生がインタビュー



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

P 3	巻頭言「コロナ 3 年目」 東京成徳学園 理事長 木内 秀樹
P 4	特集「幼稚園新園舎が完成／成徳幼稚園に改称予定」
P 6	特集「各校の ICT 活用・データサイエンスの取り組み」
P 8	特集「パラアスリート 高桑早生選手 インタビュー」 東京2020パラリンピック日本代表／東京成徳大学深谷高等学校 卒業生 高桑 早生 選手（NTT 東日本所属）
P 10	Topics P10 大学／大学院／短期大学 P14 中学・高等学校 P15 深谷中学・高等学校 P16 幼稚園／SNSのご案内／読者アンケートのお願い
P 17	進路「大学・短期大学の就職状況」 大学・短大就職支援センター長 稲垣 久美子 内定者インタビュー
P 18	ひと「活躍する卒業生」 スチューベン農家 芽実農園経営／鶴田町地域おこし協力隊 山田 園実 さん
P 20	特集「各校で開催された学園祭・文化祭」 P20 大学／短期大学 P21 中学・高等学校（中高一貫部・高等部） 深谷中学・高等学校（中高一貫コース・高校）
P 22	クラブ活動等報告
P 23	表彰・受賞のご紹介／学園の動き「学園人事」 採用・退職 訃報
P 24	ブランド・ステートメント／お問い合わせ先



TOKYO SEITOKU

学園シンボルマーク

イエローは「活力」と「勇気」を表し、三本の柱は学生・生徒・園児、教職員、同窓生を象徴しています。ブルーは「理想」と「若さ」を表し、五本の柱は五つの教育目標を象徴しています。そして、八本の柱が一体となり、東京成徳学園とその学園に集う人々のヒューマニティを作り上げる姿を表現しています。

表紙 本学園卒業生の高桑選手（NTT 東日本所属）に高校生がインタビュー

東京成徳大学深谷高等学校の卒業生で、東京2020パラリンピックに出場した高桑早生選手に、東京成徳の高校生たちがインタビュー取材を行いました。世界を舞台に活躍する高桑選手からとても貴重なお話を聞くことができました。

こちらのインタビューは、今号でご紹介しています。どうぞご覧ください。



コロナ3年目

東京成徳学園 理事長 木内 秀樹

新年おめでとうございます。皆様には新しい年を迎えて、さまざまな期待や抱負をお持ちのことだと拝察します。学園としても「東京成徳ビジョン100」で示された創立百周年に向けての姿を実現すべく、今年も着実に歩みを進めていく所存です。ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

一．コロナとの闘い

コロナとの闘いがまだ続いていきます。日本ではようやく感染者と死者が急減し、日常が戻ってきたように感じていましたが、突如変異株「オミクロン株」の出現によりまた緊張が走っています。今回のウィルスは、変異が速く、しかも感染力が強くなるため対応に警戒が必要です。「オミクロン」はギリシア文字の15番目ですが、最後のΩ（オメガ）まで使用したら次はどうするのだろうかという余計な心配までしてしまっています。

二．日本の謎

日本の感染状況が抑制できている

ことは世界中の謎です。そもそも日本国内でも、確たる理由が解らないというのが正直なところでしょう。しかしそれでは、この経験が活かされません。研究者によるしっかりと分析説明がされ、次のパンデミックに備えることが望まれます。

この日本の状況変化を「ワクチン効果」「デルタ株自滅説」「日本人の生活習慣」などいろいろな理由付けがされており、海外からは日本政府が数字を誤魔化しているのではないかと疑いをかけられる始末です。

私は、韓国の慶北大学医学部のイ・ドクヒ教授が最近発表した「自然感染を防がなかったおかげ」という説に納得しています。「無症状であっても絶対かかってはならない感染症」という仮定に基づき、世界各国では広範囲なPCR検査を実施し、陽性者を拘束隔離する方針が主流でした。中国のデイズニールランドで1名の陽性者が判明したことから場内3万人のPCR検査が実施されたこ

とを皆様はご存知でしょうか。

ヨーロッパでも感染拡大に伴って強力なロックダウン（都市封鎖）が繰り返されてきましたが、感染防止に成功したと評価されていたドイツでさえ、現在では悲惨な状況です。イ教授の言うように「日本の感染は単純にワクチン接種率を高めたから抑えられたのではなく、無症状あるいは軽症で終わる自然感染を止めなかったから」ではないでしょうか。

PCR検査を増やさずに放置しているように見えた日本で死亡者の爆発的増加を防げたのは、ワクチン接種率の増加とともに集団免疫の獲得の効果があつたと考えています。

ヨーロッパでロックダウンをしたなかったスウェーデンは、一時人口当たりの死者数が多くなつたことから、「集団免疫獲得政策」の失敗と批判を浴びましたが、現在は大変落ち着いた状態だと聞いています。

三．日本の対応

欧米各国からはワクチン接種を強制されることへの反対デモや強力な行動制限に対する嫌悪感のニュースが伝わってきています。その一方で日本の緩い行動指針と国民の真面目な対応が今のところ成功しているような気がします。まだまだ油断はで

きないのですが……。

それにつけても、感染症対策分野の尾身茂会長が「感染拡大のスピードを抑え、死亡率を下げる」ことがこの戦略の目標だ」と明言し、感染拡大が始まった当初、検査対象を「入院が必要となる可能性が高い重症患者に絞り、感染で死亡する人の数を減らすこと」を目標に掲げました。こうした方針のもとに取り組まれた関係者に敬意を払うとともに、医療崩壊が危惧される中、献身的に治療に当たられた医療従事者の皆様に改めて感謝を申し上げます。

四．コロナ後

しかし、日本だけがコロナを克服しても解決にならず、世界中に日常が戻ることが必要です。そして世界中の国々の間に交流が復活し、若者の留学が再開されることを望んでいます。これからのグローバル時代を生きる若者には、書物の知識だけでなく、世界の多様性を肌で感じ、さまざまな国の人々と交流することが大切な経験になると思うからです。今回の出来事を契機にネットの活用がより進んでいます。私には、対面でのリアルな交流の必要性和大切さを更に感じさせられました。

幼稚園新園舎が完成

大きな窓や天窓から、外の光が注ぐ
明るい園舎になりました！

2021年9月新園舎が竣工、10月に旧園舎解体から始まった園庭整備も12月に完了し、東京成徳短期大学附属幼稚園の新園舎建築計画が無事終了となりました。

新しい幼稚園舎は、安全・安心を配慮した設計で造られています。隅々まで視線が通るフロアー設計とし、子

どもたちの見守りをよりしやすくしました。各保育室の扉を収納可能な引き戸としたことで、開け放せば隣の保育室や廊下を一体の空間として活用することができ、遮るものを減らし、見通し良くなったことで、これまで以上に安全・安心に配慮した保育が行われることが期待されます。



▲園庭から見た新園舎外観の写真。
左の大きな木は、新たに植樹したシンボルツリー。
(2022年1月撮影)



▶新園舎2階フロアーの3DCGパース。

■新園舎の建物コンセプト

①学び・遊びの風景がつながる空間

- ・コーナーに壁がなく視線が通る保育室
- ・発見の空間「絵本とアートのプロムナード」

②健康的な保育環境

- ・建物中央に光が射すトップライト
- ・冷暖房共に床輻射空調
- ・木質素材に囲まれ緑が見える空間

③園児の感性を育む内装計画

- ・空間をつなぐ特徴的な色彩の天井
- ・星のように散りばめた照明
- ・色とカタチがそれぞれ違うサイン計画

新園舎では、①学び・遊びの風景がつながる空間、②健康的な保育環境、③園児の感性を育む内装計画の3つのコンセプトをもとに建築を行いました。

3階建ての園舎は、1、2階が保育室、3階には教職員の事務室を配しています。保育は主に、1階と2階を使用して行います。

保育室は、1階に3室、2階に6室の合計9室と多目的室1室が配置され、それぞれ十分な広さを確保しています。広さに加えて、各保育室の窓を大きくとったことで、外の光が保育室へとたっぷり注がれ、室内はとても明るく、子どもたちも毎日を楽しみ、元気に過ごすことができるようになりました。

2022年4月から

「成徳幼稚園」に改称（予定）

せいとくようちえん
成徳幼稚園

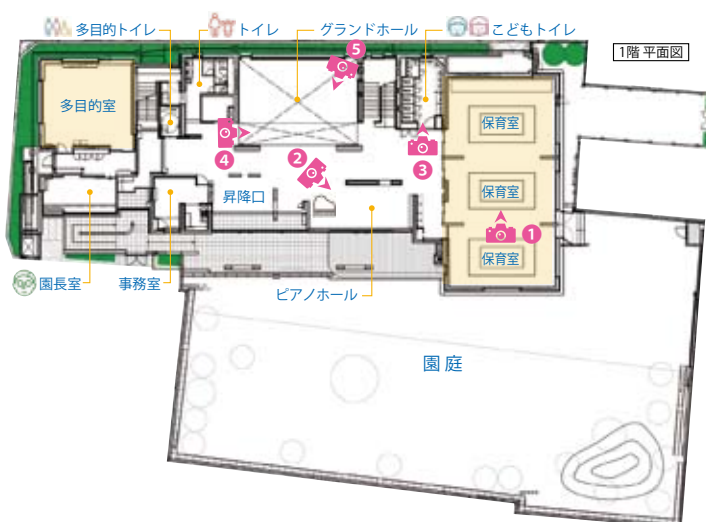
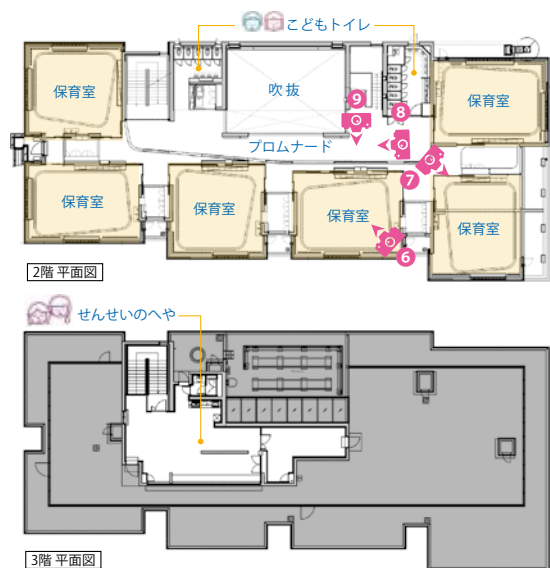


東京成徳短期大学附属幼稚園は、2022年4月より「成徳幼稚園」に改称します。
本法人の高等教育機関である大学・短期大学が、ともに保育者養成課程を有していること、また地域の皆様から本園が長年「成徳」の呼称で親しまれてきたこともあり、このたびの新園舎建築計画の完成に合わせ、「東京成徳短期大学附属幼稚園」から「成徳幼稚園」に名称を変更することになりました。

園名改称となりますが、これからも変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



▲新園舎建築により、取り壊された旧園舎の外観。
長い間、ありがとうございました。



1階の玄関わきは、大きなグラウンドピアノがある「ピアノホール」です。このピアノは、先生による演奏はもちろん、自動でメロディを奏でます。同じ1階中央には、吹き抜けの開放感と天窓から注ぐ光でとても明るい「グランドホール」が設けられ、今後、お遊戯会やお誕生日会などのさまざまなイベントがここで行われます。

2階プロムナードには、たくさんの絵本が配置され、子どもたちは自由に絵本を手にとって読むことができます。大人には少し狭いけれど、子どもたちには十分な幅のソファに座って、好きな本や新たに発見した本を、楽しそうに読む姿が想像できます。

1階、2階の所々には、絵画などのアート作品が飾られています。普段からアートに触れてもらいたい、という本園の願いが込められています。



各校の ICT 活用・データサイエンスの取り組みをご紹介します

ICT（情報コミュニケーション技術）が発達したことで、コミュニケーションにおける物理的な距離は障害要因とはなくなりましした。グローバル化に向け、さらなる ICT 戦略は必要であると考えられています。実際、日本でも「Society 5.0」と呼ばれる仮想と現実空間を融合させた未来社会の実現を目指しています。

教育現場では、児童 1 人に 1 台の端末環境を目指す「ギガスクール構想」が進められています。また、今注目の教育として、子どもたちを今後の IT 社会に順応した競争力のあたる人材に育てる「STEAM 教育」という概念も生み出されています。

新型コロナウイルス感染症は教育現場にも大きな影響を与えましたが、より一層の ICT 活用等の新しい取り組みへと向かうきっかけともなっています。

今号では、東京成徳ビジョン100で『成徳』の精神を持つグローバル人材の育成」を目標に掲げ達成を目指す、東京成徳学園各校の「ICT 活用およびデータサイエンス」に関連した取り組みをご紹介します。

■東京成徳大学深谷中学・高等学校 深谷校 ICT 教育の現状について

専任講師 ハウズ・スティーヴン
深谷校における ICT 教育については、コロナ禍以前から徐々に進んではいましたが、コロナ禍によって一気に加速しました。

まずは、Google Workspace for Education にすべての生徒を登録したことです。このことにより、Google Meet を使って、臨時休業中も、SHR と終礼、授業や面談を行うことが可能となりました。例えば Google Meet の活用で英会話授業が活性化し、オンライン学習が不可欠となりました。また、現在では授業だけでなく学校行事のライブ中継など、さまざまな活用が広がっています。

次に、校内の Wi-Fi 環境が全館完備されたことです。生徒は、ネットに簡単に接続できるため、ウェブサイトのビジュアル素材など豊富な情報を生徒自ら収集・活用して、学習を深めることが可能となっています。以前に、オーストラリア修学旅行の事前学習の一環として、Skyper を介してオーストラリアの学校と関

わったことがありました。今後は、Wi-Fi 環境が完備されましたので、校内のどこにいてもネット機能を活用できるようになりました。

さらに、今年度中学校と高等学校の生徒全員に学年進行で携帯用パソコン Chromebook が導入されたことです。生徒の積極的な活用により、生徒が自ら成長していく姿が見られ、頼もしく思っています。一方で、授業中に発言しない生徒も画面上で個々に把握することができました。生徒と教員とが、それぞれの活動を互いに目で確認できるので、生徒の個別指導が一層効果的に進むこととなります。

長い歴史の中で育まれてきた今までの教育は、決して間違ったものではありません。ですから、ICT 教育導入という、この変革にためらう人が出ることも理解できます。ICT の導入には、指導する教員、学習する生徒の双方に、多くの新たな課題をもたらします。これらの課題を一つひとつ解決しながら進んでいくことが、これからの社会を担う生徒にとつて避けられない道であります。最後に、未来派のアルビン・トフラーがかつて述べた言葉を紹介します。

「今世紀の非識字者とは、読み書き

ができない人ではなく、学び、学び直し、そして再学習することができない人のことです。」



ハウズ・スティーヴン
言語学修士。6 年前深谷校に赴任。今年度、特別教員免許状を取得。赴任前はオーストラリアの伝統校で理科を教え、e ラーニング部署所属。英語教育と ICT 活用教育に、日々情熱を注いでいます。



▲ Google Meet の「イングリッシュチャット」セッションに参加する中高一貫コースの生徒と先生。

■東京成徳大学

経営学部で初めてとなる プログラミング特別講座を開講

経営学部では、夏季休業期間を利用して、プログラミング特別講座を開講しました。

本講座は、夏季休業中の5日間で計10コマ、15時間にわたる集中講義として実施。講師に、東京工科大学より専任講師の福西広晃先生をお招きし、経営学部1年から4年生の中心で受講を希望する計19名の学生を対象に行われました。



Google Colaboratory を使用し、講義は行われました。ネット環境があればいつでもどこでも利用が可能であり、講義終了後も継続して学修が続けられます。受講生の半数近くが女子学生であったことには驚きましたが、男女問わず、プログラミングに関心を持っていることがわかります。



今回のプログラミング特別講座の開講について、村山経営学部長は以下のように説明しています。「DX（デジタル・トランスフォーメーション）の時代になり、さまざまな産業でデータを活用した経営が行われています。そこでは、データを適切に処理する能力が重要です。今回のプログラミング特別講座は、こうした社会のニーズに適合し、学生の将来の活躍に役立つものと考えています。」

受講学生は、本講座を通して、プログラミング (python 言語) に必要な文法やデータ処理、データの可視化、統計手法を段階的に学修しました。受講学生からは、「講習で学んだことを忘れず、さらに記憶に定着できるように自習していきたい」、「簡単な内容のプログラミングを身につけて就職の際に少しでも有利になるように頑張りたい」といった感想も聞かれました。

現在、経営学部では、「ICTと企業経営」「情報社会とセキュリティ」「データベースシステム」など、経営学×ICTで掛け合わせた講義を開講しています。

今回の講座をきっかけに、学生がデータサイエンスやICTに関心を寄せ、これらの分野で将来活躍できる人材が育つことを期待しています。

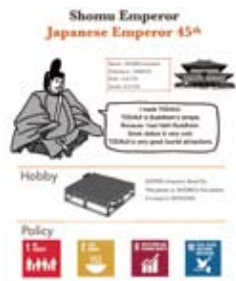
■東京成徳大学中学・高等学校

中学ADS再認定、高校も認定を受け さらなるICT活用へ

中高一貫部では、5年前から生徒が1人1台、iPadを持つ環境を整え、積極的にICTを活用した教育を行い、2018年度に「Apple Distinguished School」に中学が認定（期間3年）されました。さらに今年、一人ひとりの創造性を最大限に引き出す教育が認められ、中学で2期目の認定を受けています。それと同時に高校でも認定され、中高揃ってADS認定校となりました。

iPadの活用は、授業や日常的な学習ツールとして高い効果を上げ、「コミュニケーションと創造性、チームワーク、批判的思考力、学びの個別化、実社会とのつながり」の学びの体験に大変適し、学習上の効果を統計・分析した結果でも確かな効果が出ています。

ICTを活用した創造的な学習により、生徒同士の交流が今まで以上に活発になり、生徒たちはさまざまな価値観の中で学びを深めています。



例えば、英語で歴史上の人物を紹介するチラシ作り。「偉人の偉業はSDGsのどれに当てはまるか」伝えたい情報をデザインに落とし込み、要約する力へとつなげます。

■東京成徳短期大学附属幼稚園

ICTソフト「ゴドモン」の導入、 教員のiPad利用で効率化を図る

新園舎に合わせ、ICTの導入と活用を始めます。これまで園と保護者のやり取りは手書きのお便りや電話が主でしたが、導入する「ゴドモン」により園と保護者のコミュニケーションが手軽になります。スマホのアプリを通じて、お便りやお知らせを配信し、欠席連絡でもアプリを使用予定。園・保護者ともに一つひとつの手間が減り、より円滑なコミュニケーションが見込まれます。



スマホに届くお知らせの表示イメージ。

園内でも教員がiPadの利用を始めます。手元でゴドモンが確認できるため、園児の情報や保護者からの連絡も教室で確認ができます。そのため、忙しい時間の電話対応も減り、準備や子どもとのふれあいに集中できます。また、日頃の園児の様子も、すぐに記録ができるようになっていきます。



ICTの活用で、教員に子どもと向き合う時間と心のゆとりが生まれ、これまでに質の高い保育が期待されます。

特集

東京2020パラリンピック日本代表／東京成徳大学深谷高等学校 卒業生

パラアスリート 高桑早生選手 インタビュー

■ 高桑早生選手（NTT 東日本）プロフィール

東京成徳大学深谷高等学校の入学後から、パラ陸上競技をスタート。高校時代から国際大会に出場し、表彰台に登る活躍をする。慶應義塾大学進学後の2012年、ロンドン大会でパラリンピックに初出場。以後2016年リオデジャネイロ大会、そして2021年開催の東京2020パラリンピックまで、3大会連続で出場し、各大会で入賞の成績を残す。現在は主に、100m（T64）、走り幅跳び（T64）を中心に陸上競技に取り組んでいる。



東京成徳学園 HP で
より詳しい記事を公開中。
併せてどうぞご覧ください。

東京2020パラリンピックに、日本代表として出場したパラアスリートの高桑早生選手を、高桑選手の母校である東京成徳大学深谷高等学校と東京成徳大学高等学校の陸上競技部生徒が、共同でインタビュー取材を行いました。



▲インタビューに答える高桑選手と取材を行う東京成徳大学深谷高等学校の生徒（オンラインで参加、モニター内4名）、東京成徳大学高等学校の生徒（写真の右5名）
（2021年11月9日、東京成徳大学中学・高等学校にて取材・撮影）

パラリンピックはいつでも「夢の舞台」

Q: パラリンピック3大会に出場した感想を聞かせてください。

初めてのパラリンピックは2012年ロンドン大会です。それまで、日陰の存在だったパラリンピックが、注目を浴びて、史上最高に成功したと言われています。その大会に選手として出場しましたが、初めてでも「本当に今までになく素晴らしい大会」とわかるほど。この後に開催する国は大変だろうと思うくらい素晴らしい大会でした。私にとって、どれも印象に残る大会です。パラリンピックで得られるものは唯一無二。それぞれの大会で大きな思い出が作れたかな、と思っています。一言で言う「夢の舞台」というのが、3大会を経験しての感想です。

好き、楽しい、挑戦したいが原動力

Q: 膝の手術のリハビリ中です。辛いとき、どのように乗り越えましたか？
皆さん、いろんな思いで、陸上競技に臨んでいると思いますが、その根底には陸上競技が好き、スポーツが好き、体を動かすのが好きという、すごく純粹な思いがあるはずです。私はその「好き、楽しい、挑戦したい」が原動力です。苦しいとき、やめたいと思ったときこそ思い出し、「自分は何がしたい、何が好きなのか」に立ち返るようにしています。

中1で病気が見つかり、足を切ったときのこと。私はスポーツが好きで、体を動かすことが好きで、何か必ずスポーツをやりたい。主治医から「義足も良くなっているから、ひよつとしたら義足になったほうが選択肢は広がる」と言われました。今思い返すと、そのときも自分は何が好きで、何のために生きていきたいのか、人生に何が必要なのかを考え、自分の気持ちの根底にある「好き」という思いを大事にしたから決断できたのかなと思います。

なぜ陸上競技をやりたいのか、自分は好きな気持ちでやれているのかに、一度向き合うこと



は大事なことだと思います。がんばってください。応援しています。

3年後のパリ大会は目指したい

Q: 何歳まで競技を続けますか？
パリ大会は目指しますか？

パリパラリンピックは目指したいと思っています。今のところ、代表レベルを続けることと言えば、パリはまだまだ具体的に存在すると思っています。

パラリンピックは普通のスポーツと違い、結構年数がものを言うことがあります。自分の体ではないものを扱い、扱った分、自分の体に馴染み、上手くコントロールできることがあるので、「体が動き続ける限りは走っていたいな」と思っています。

何歳まで続けるかは、具体的に決めているのですが、少なくともパリまではしっかり皆さんの目の届くところで、競技をしたいと思っています。

できる人ができることをやる

柔軟に対応できる人になってほしい

Q: 大会中、オリパラのテーマ「多様性・共生」を感じた出来事はありますか？

競技者は競技で結果を出すことが一番で多様性や共生を競技とつなげて考えることは実は難しいです。ただ、私が最も多様性や共生を感じた瞬間は、競技から一歩離れた日常生活、パラリンピックの選手村にいたときです。

私は普段の生活ではいわゆるマイノリティと呼ばれる立場。しかし、不思議なもので、選手村では途端にマジョリティになります。目の見えない人を車椅子の人が先導する、私も目が見えない人と一緒にいれば「はい、肘持って」とサポートしていました。選手村では、普通にそういうやりとりが行われ、できる人ができることを、手を差し伸べるのが自然に行われます。

私は選手村を「It's a Small World」と言いますが、これこそ多様性であり、共生社会というものと思っています。置かれる立場が変われば、その役割も変わってくるはずなんです。

今後はもっと多様性がキーワードとなり、障がいのある人たちが活躍できる社会になるはずです。皆さんがいろいろな人に出会って、今自分ができることを柔軟に、ずっとやってあげられる人になってくれたら、これからの日本の社会も変わっていく、と私は選手村というものを経験して思いました。



▲右から木内秀樹理事長、高桑選手、江原良則先生（高桑選手の高校時代顧問で、現在も陸上部顧問）

東京成徳大学

全学部学科が

東京キャンパス（十条）に揃います

東京成徳大学長 吉田 富二雄

平成28年4月にスタートした東京キャンパスへの移転事業は、7年目の本年4月に無事完了します。今後は国際学部・応用心理学部・子ども学部・経営学部4学部の総勢2000名を超える学生が東京キャンパスで学ぶことになります。人文学部2学科は国際学部・健康・スポーツ心理学科は「都会型」の学科に生まれ変わります。大学院心理学研究科も王子から移転し、すべての学部学科が「オール東京成徳」のメンバーとして東京キャンパスに揃うわけです。折しも十条駅西口は再開発のただ中、2024年には地上39階、高さ147メートルの高層ビルが建ち、十条もやがて活気と賑わいのあふれる若者の街に変貌することでしょう。

■ 十条駅西口地区開発イメージ図



図の左上方面が本学キャンパス

画像提供：十条駅西口地区市街地再開発組合
東急不動産株式会社

前回の認証評価で交付された認定マーク
(認定期間は2015年～2022年)

本年度は、日本高等教育評価機構による認証評価の受審の年でもあります。法令により大学は7年に一度、教育研究・組織運営・施設設備等について評価を受けなければなりません。審査の最重要基準は「教育の質保証」。コロナ禍が大学選びの価値観を多様化させている現在、「身につく力（学修成果）」は何か、大学はどのような力を提供できるのか。学生一人ひとりが自らの成長を実感し、身についた力を自分の言葉で語ることができる「学修者本位の教育」が最も大きな課題となります。思い返すと一昨年の新学期、コロナパンデミックの不安の中で私たちは手探りで「オンライン授業」に乗り出しました。教職員一人ひとりが、情報を集め、試し、共有することで、教育活動を1年間無事やり遂げました。できる限りの感染対策で大学内クラスターは発生させずに済みました。今年も全教職員が力を合わせて、「東京成徳の未来をデザイン」する力強い第一歩にしたいと思います。

人文学部

人文学部の精華

人文学部長 青柳 隆志

人文学部は文化・言語・伝統に関する特色ある教育を進めてまいりました。特に日本伝統文化学科では、伝統文化の継承を志す学生が入学し、装束や伝統芸能の授業を受けて成長しました。その最後の精華として、学生有志が大学祭のステージで渾身の発表を行ってくれました。日本舞踊と歌謡ショーを取り合わせ、インスタグラムで配信するなど、現代にもフィットした発信を行ってくれました。人文学部の最後を飾るにふさわしい見事なパフォーマンスでした。人文学部はこれで幕を閉じますが、この教育の効果は将来大きく花開くものと信じます。



国際学部

英語圏留学（カナダ）の渡航開始

国際学部長 芳賀 克彦

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が続いていますが、2021年度の本学部の海外留学のうち、韓国留学については、昨年8月から9月に学生を現地に派遣することができました。英語圏留学については、カナダ組とオーストラリア組の2グループに分けて準備を進め、昨年9月からそれぞれの現地の教育機関によるオンライン授業を開始していました。

昨年11月の段階で、カナダのトンプソンリバーズ大学での受け入れ準備が整ったことを受け、11月13日より学生を現地に派遣することができました。

トンプソンリバーズ大学に留学の12名は、11/13に現地空港に到着。ホストファミリーの方々が出迎えにきてくださいました。



オーストラリアについても、昨年11月から外国との出入国が再開されたことから、本年早期の学生の現地派遣を目指し、現在、派遣先となるディーキン大学との最終的な交渉が続いているところです。

応用心理学部

【臨床心理学科】

公認心理師科目の整備が完了

応用心理学部長
臨床心理学科長

一谷 幸男

4月から7月にかけて本学科で、5名の教員の着任がありました。4月に専任として茂呂雄二教授（教育心理、言語心理学）、7月には湯立助教（教育心理学）をお迎えしました。「心理学実験」や「心理学研究法」など心理学の基礎的な科目の充実が叶いました。学科生の学習意欲はもちろん、課外活動も含めて大学でのいろいろな活動の「やる気」を高めてもらえるように、専門の教育心理や動機づけ心理の知識に基づいた指導を期待しているところです。また、特任教授の佐藤章子先生、特任准教授の小西瑞穂先生が4月に、さらに特任准教授として小林規江先生が5月に着任されました。先生方には、学科の4年生が学外の心理臨床の現場見学を経験する「心理実習」を担当いただいています。心理学における初めての国家資格である公認心理師（平成29年9月施行）の受験資格を得るための、学部レベルでの科目がすべて整い、将来の心理支援専門職を目指す学生を大学院に送り出す体制が出来上がりました。

【健康・スポーツ心理学科】

学生を鍛える健スポの「基礎ゼミ」

健康・スポーツ心理学教授 出雲 輝彦

健康・スポーツ心理学科の「基礎ゼミⅠ～Ⅳ」では、大学での学びや生活に適應してもらったための内容を1年次に、また、社会人基礎力の修得につながる内容を2年次に設けています。特に、2年次は学生を鍛えるためのプログラムが多く、「秘書検定2級にチャレンジ!」「ビブリオバトル」「チーム課題達成プロジェクト」などがあります。ビブリオバトルでは、4つのゼミから選ばれた8人の代表者による決勝大会を開催しました。グラウンドチャ

ンプ本に選ばれた学生には今年度の図書館長賞が授与されることになっています。



ビブリオバトルの決勝大会の様子
ビブリオバトルに取り組むことで、本をしっかりと読み込み書評する力と、本の良さや特長などを伝えるプレゼン能力が養われます。

経営学部

今年度の「現代ビジネス講座」

経営学部長 村山 純

本講座では昨年度、コロナの影響で社長講演の機会を作れませんでした。今年度は対面授業の機会が増え、8名の社長にご登壇いただくことになりました。

経営学部では、この科目を学生が現役の社長やビジネス・パーソンの聲に^{けいご}触れる大変貴重な機会と位置づけています。今年度からは、就業意識を早くから涵養するため対象学年を従来の3年生以上から2年生以上としました。

今年度開講して驚いたのは、学生の提出するコメント（400字程度の記載が求められる）がしっかりと書けていることです。これには講座運営にご協力いただいている中小企業診断士の先生方も強く印象づけられています。今後本講座の拡充を図ります。



子ども学部

子ども学部公開講座

子ども学部教授 長野 麻子

2021年度の子ども学部公開講座は、長引くコロナ禍のため、映像配信によるオンデマンド講座として開講する運びとなりました。『何気ない日常からうまれる絵本と紙芝居』と題し、絵本作家長野ヒデ子氏と私こと長野麻子の母娘講師が自著の絵本と紙芝居を取り上げ、創作の原点や舞台裏について語ります。長野ヒデ子氏のデビュー作『とうさんかあさん』から最新作『せとうちたいこさんふじさんのぼりタイ』までの45年にわたる作家活動の軌跡、長野麻子の音楽の研究と絵本の創作の関係など盛りだくさんの内容です。公開講座視聴申し込みは、大学ホームページ子ども学部お知らせ欄をご覧ください。2022年3月末日まで配信中です。



2年目の新型コロナ対応

企画・IR室長 長谷部 孝司

新型コロナ対応も2年目となりました。本学ではこの間の知見と経験を踏まえて、今年度からは教育の正常化を目指すことになりました。

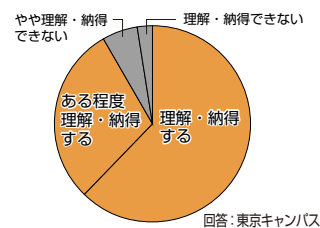
まず、授業については全学原則「対面」との方針を明確化しました。ただし、感染拡大の不安も残りましたので、対面授業のハイブリッド方式（やむを得ぬ事情の場合、遠隔方式での受講可）を継続し、東京キャンパス（十条）では大人数授業にオンデマンド方式を導入するなど、きめ細かく対応しました。また、課外活動、大学祭、オープンキャンパスなども、全面解禁とまではいえませんが、感染対策を強化のうえ対面方式での再開へとこぎ着けることができました。

正常化といっても依然制約があります。学生たちがこれらをどのように受け止めているのか調べてみました。「大

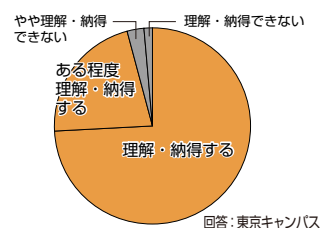
学への登校制限」に対しては、「ある程度理解・納得」と「理解・納得」が計91.9%、「遠隔授業の導入」も同様に95.9%でした（東京）。不自由さは感じつつも、事態を冷静に受け止めているようです。また、遠隔授業に対する受け止め方は、興味深いものでした。コロナ収束後は「すべて対面授業がよい」は18.3%、逆に「すべて遠隔」は12.3%、「授業の状況・内容・形態による」が33.8%と、遠隔授業には一定の支持がありました（全学）。

コロナ対応を経験し、デジタル技術の重要性を多くの人が再認識しました。遠隔授業も単なる緊急避難を超えて、授業運営に新たな可能性を拓くものとなるでしょう。本学ではこれに対応すべく、学則に新たに多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する条項を追加しました。「アフターコロナ」の正常化は、単なる「ピフォーコロナ」への復帰ではなく、新たな次元を目指す必要性が高まっています。

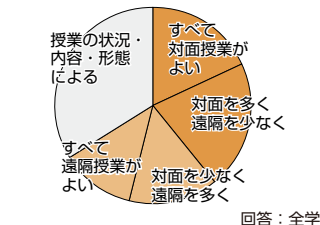
Q.登校が制限されていること、されたことをどう思うか？



Q.対面授業のほかに遠隔授業を導入していることをどう思うか？



Q.感染の危険が少なくなった場合、対面授業と遠隔授業の割合は？



Topics

東京成徳大学大学院

後期博士課程3年岸本久美子さんが、国際学会（EAFONS）で受賞

2021年4月開催の『24th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference 2021』で、院生の岸本さんがベストポスタープレゼンテーション賞を受賞しました。

看護師経験を持つ岸本さんは、看護師のメンタルヘルスに関する研究に関心があり、コンパッションセラピーを活用した研究について、指導を受けるため本大学院に入学されました。過去、看護師によるバーンアウトを自身も経験。その経験から看護師のストレスケア、しかも看護師自身が自分でセルフケアできるスキルの必要性を感じています。看護師は共感を求められますが、共感の使いようによっては疲



心理学研究科
後期博士課程3年
岸本 久美子さん



▲岸本さんと
指導教員の西村准教授

岸本さんは、帝京平成大学で教員として教育・研究に携わる一方、2019年4月大学院心理学研究科博士後期課程に入学。看護師として10年の臨床経験もお持ちです。入学後は看護師のメンタルヘルスの支援における、ポジティブな心理要因のストレス低減への影響について、日々研究しています。

労してしまします。感情による疲労を溜め込まず、共感満足を高めながら共感疲労を低減していく、そのような形でストレス軽減方法を研究されています。

今後の目標として、「今回の調査結果を洋雑誌へ投稿し、海外へも新しい看護師のメンタルヘルス対策を伝えたい。また看護師を目指す学生が、臨床の場でもバーンアウトせず、早い段階でメンタルヘルス対策ができるよう、私の研究や調査を学生に還元し、ひいては患者さんに還元されるようにしたい」と話しています。

指導教員より

准教授 西村 昭徳

岸本さんは、看護師の実践の基盤と考えられる慈悲心とメンタルヘルスの関係について、とても精力的に研究されてきました。慈悲心の概念構造を解明し、慈悲心が共感疲労やバーンアウトの予防に寄与する可能性を示してきました。今後は慈悲心を育てるプログラムの構築を目指しています。慈悲心とは何か、どうやったら育つのか？ 徳を成す人材育成に携わる者として、私自身に問い続けていきたいと思っています。



コロナ禍の教育・保育実習

実習センター長 善本 眞弓

2020年3月の全国の幼稚園・小・中・高等学校等への「二斉休校要請」に始まり、4月の「緊急事態宣言」以降、子ども学部と幼児教育科の教育実習・保育実習の実施にも深刻な影響が及ぼされてきました。2月・3月に予定していた保育所実習は自治体および園より中止・延期の連絡が入り、実習の一部は翌年度に持ち越されました。

その後の感染拡大・緊急事態宣言の発出により、幼稚園・保育所・施設・小学校の実習も期間変更を余儀なくされ、幼児教育科の2年生は卒業までに幼稚園実習・施設実習を実施することが困難となり、代替授業を実施して対応しました。子ども学部の幼稚園実習においては「教育実習特例」（実習科目以外の単位を実習単位に当てる措置）を1名の学生が活用し、免許取得に影響を与えることなく対応をしてきました。

実習センターにおいては「外部実習のためのガイドライン」「外部実習のための新型コロナウイルス感染症拡大防止対応」を作成し学生・実習先に提示、さらに実習のための「健康チェック表」

を作成し、学生に感染予防対策を呼びかけてきました。また、いち早く実習前のPCR検査を導入したことで、実習先からの信頼を深めております。

感染者の増加・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等の発出により、実習への影響は2021年度も続いており、幼児教育科では代替授業が実施されています。しかし、本学に対するご理解とご厚意により、予定どおり実習を受け入れていただいている自治体・実習先も多数あり、感謝の念に堪えません。

実習センターでは引き続き情報を共有し、実習先の子ども・利用者・ご家族・教職員、学生の健康・安全を考慮し、より有意義な実習の機会が確保できるよう、関係各署と連携して取り組んでまいります。



新園舎の東京成徳短期大学附属幼稚園にて実習する子ども学部の学生

外部認証評価受審の報告

教育研究改善（自己点検・評価）委員会

副委員長 馬場 康宏

※ ALO 松本 純子

今年度、短期大学は「一般財団法人大学・短期大学基準協会」による外部認証評価を受審しました。例年は報告書および根拠資料による書面調査と訪問調査によって評価が行われますが、今年度は感染症拡大防止等の観点から、訪問調査に代えて「事前確認・質問票」およびオンライン会議による2日間の面談によって実施されました。本学は9月21、22日にオンラインによる面接調査を受けました。

評価対象年度であった2020年度は、学内でも前年度末から新型コロナウイルスに関連した実況にさまざまな対応に追われることになった年でした。このことが自己点検の作業を進めていくうえでも見通しが持ちにくく、苦慮したところでもありました。

短期大学では教育研究改善（自己点検・評価）委員会により、委員長である木内学長の指揮のもと、毎年、基準協会が示す評価基準にそって自己点検評価活動を行い、その結果を報告書としてまとめています。20年度、

短期大学の自己点検・評価活動として、まず、19年度中から取り掛かっていた19年度の報告書を完成させ、続いて20年度自己点検・評価報告書の作成に取り組みました。加えて評価対象年度である20年度中に行わなければならないことを再確認し、取りまとめ、それらに対処しつつ20年度の実態と報告書内容を合わせる作業を進めることで認証評価に備えました。

基準協会による認証評価は、短期大学教育の継続的な質の保証、主体的な改革・改善の支援、教育の向上・充実、評価システムや評価結果の公表により広く社会の理解と支持を得ることを目的として実施されるものです。協会が示す評価基準は、内部質保証の観点から特に学生の学習成果の獲得を中核に据えた評価システムになっています。学生が獲得する学習成果は明確であるか、それを支える学生教育課程であるか、それを支える学生支援体制や財政的な基盤の状況、そしてPDCAサイクルは確立しているかなどの基準により評価がなされます。

今後も課題を明確にし、課題を全教職員で共有し、協同的に改善の方向に進めていくことができるよう自己点検評価活動を行いながら、本学の教育の質保証に取り組んでまいります。

Topics

東京成徳大学 中学・高等学校
(中高一貫部)

中学スポーツ大会・高校球技大会

教諭・高校生徒会顧問 安田 一平

今年度の中学スポーツ大会は、衆議院選挙の影響で、外部施設の利用が困難となり、学校での開催となりました。3団に分かれて行い、中学3年生が中心となり、学年の壁を超えて応援する姿が印象的でした。高校球技大会は、クラス対抗での開催となりました。6年生にとっては最後の学校行事ということもあり、競技や応援にも熱が入りました。中学・高校ともに、生徒会が中心となって、企画・運営を行いました。感染対策を考えながらの行事ということもあり、いろいろな制約がある中での開催となりましたが、生徒たちのさまざまな工夫や全力プレーも多く見られ、学校に少しずつ活気が戻ってきたように感じました。



中学生徒会選挙

教諭・中学生徒会顧問 青木 久志

11月11日、中学1・2年生による「中学生徒会選挙」が行われました。

昨年はオンラインのみの実施でしたが、今年は1年生がオンライン、2年生はホールで演説を聞くことができました。2年生から会長1名、副会長1名、1年生から副会長1名の選出に対し、2年生の副会長候補者は2名、1年生は5名と大激戦になりました。この選挙に向けて立候補した生徒たちは、手作りの選挙ポスターや襷、政見放送的な動画作成など、多くの工夫が見られました。中には、朝の挨拶運動や昼休みに遊説する候補者もいました。選挙管理委員である3年生のサポートもあり、選挙当日まで白熱した選挙戦が繰り広げられました。新しいリーダー達による1年間の始まりです。新しい東京成徳を創り上げていくことに期待したいです。



Topics

東京成徳大学 高等学校
(高等部)

笑顔をありがとう

教諭・生徒会顧問 永尾 瑠衣

今年度高等部では、緊急事態宣言を受け、行事が立て続けに延期となっていました。そして10月下旬、念願の体育祭・文化祭・球技大会の融合イベントである、SEITOKU FESTIVALが開催されたのです。生徒の笑顔があふれる会場の様子を保護者の方にも直接見ていただけたことに安堵しております。一方、この成功の裏側には生徒会執行部の涙の努力がありました。

まず第一に、本来の行事の様子を知らない現2年生が中心となっていた点です。暗中模索の状態の中、教員と連携を図りながら奮闘していた姿を讀みたいです。

次に、外来客の来場をどうするか直前まで決まらなかった点です。最終的に保護者2名まで来場可能となり、そこから臨機応変に準備を進めていきました。何よりもまず新型コロナウイルス感染防止を徹底しなければならぬため、生徒会執行部のメンバーからさまざまな提案がなされました。その中でも、体育館における有観客イベントの実現に向けて、

電子チケットを導入するという提案は、ダンス部顧問も務める私としても、ぜひ成功させたい試みでした。当日はスムーズな入場と会場にいる

人員把握が見事に成功しました。

最後に、例年であれば体育祭で行う団対抗の全校ダンスの遂行に尽力してくれた点です。3年生の団長やダンスリーダーが感染防止対策を考えた振り付けを5月から準備していたため、どうにか実現させたいものでした。採点基準や昼休み練習の調整、練習中に密にならないような声かけなど、生徒会の綿密な計画のおかげで最高の本番を迎えることができました。

生徒会執行部の心優しいメンバーからの気遣いに、私自身何度助けられたことでしょう。生徒の笑顔の裏側に、縁の下の頼もしい力持ちがいる、それが高等部です。



1年生のときは中止であったため、一から作り上げていくことになった現2年生中心の生徒会。それでも、試行錯誤を繰り返し、無事 SEITOKU FESTIVAL を成功させました。

「論語の里」を訪ねて

中高一貫コース長 猪野 真美

今年(令和3年)のNHK大河ドラマ「青天を衝け」は、日本資本主義の父と称される渋沢栄一翁を主人公としています。また、今年は、栄一翁没後90年の年です。そこで、11月25日(木)、中学生が渋沢栄一翁関連の施設がある「論語の里」を訪ねました。ここでは、3年1組黒澤春香さんの感想を紹介いたします。

「先日、私たちは渋沢栄一翁生誕地に建つ旧渋沢邸『中の家』や『尾高惇忠の生家』がある『論語の里』を訪ねてきました。

まず最初に訪れたのが『中の家』でした。とても大きくて立派な家で、本当に豪農だったんだなあと思いました。ボランティアの方のお話は、栄一翁家族の人物像や考え方がよくわかるお話



でした。その中で特に感動したのは、帰省する栄一翁のために妹さんが、兄をいたわって、あえて栄一翁の泊まる部屋を2階には作らなかったという話です。そこには、きつと思いが込められているんだろうと感じ、すごく感動しました。家の中には、栄一翁のアンドロイドが座っていました。本物みたいで、すごくビックリしました。

最後に訪れたのが、『尾高惇忠の生家』でした。中には栄一翁が書いた書や藍玉が飾ってありました。藍玉は1つが6寸もあり、私が想像していたものより、とても大きかったです。40年前までは、人が住んでいたと聞いて、すごくビックリしました。

今回、栄一翁が生まれ育ったところを巡って、栄一翁の考え方や家族の思いやりに触れることができた気がします。私も栄一翁のように志を高く持ち、人を思いやれる立派な大人になりたいです。」



金沢への修学旅行

第2学年主任 小見 陽紀

本校の修学旅行は、第2学年の2月にオーストラリアを目的地として実施していました。しかし、昨年度は新型コロナウイルス感染症のパンデミックで中止せざるを得ませんでした。今年はぜひとも実施したいと思っていました。今年はずいぶん実施したいと思っていました。ミックは収束しません。1学期には、オーストラリアへの修学旅行を断念せざるを得ませんでした。そこで、代わりに国内での実施を模索し、金沢への1泊のみの旅行に落ち着きました。どうにか実施することができて、本当によかったと思います。メインはグループ別の金沢市内自由行動と金箔貼りの体験でした。ここでは、2年J組出牛玲斗君の感想を紹介いたします。

「金沢への修学旅行を通して僕が学んだことは、先入観に捉われないということです。学生の間でしか経験できない特有の空間で長時間過ごしたことは、とても重要で有意義なものであり、親元から離れた場所での友達と寝食をともにするというイベントは、当日はもちろん、準備期間

から長く楽しむことができました。今回は、感染症対策を強いられ縮小されてしまいましたが、かえって限られた条件の中で何らかを成し遂げる方法を模索することの大切さがより深く実感できました。目の前の事物に不満をぶつけるだけでなく、試行錯誤することの楽しさは、これからの学校生活にも活かすことのできる力だと思おうので、忘れることなく生活していきたいです。修学旅行が実施できたのも多くの方々が実現のために動いてくださったからだと思っています。ありがとうございました。」



▲今回の修学旅行でメインの一つであった加賀金箔貼り体験。お箸に金箔を貼り付ける生徒の姿は真剣そのもの。



◀金沢市内の自由行動で着物に着替えて、観光を楽しむ女子生徒も見られました。

東京成徳短期大学附属幼稚園

楽しかった作品展

教頭 梶山 久美子

11月20日、小春日和の穏やかな好天のもと、新園舎にて作品展が開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、昨年は中止となっておりましたが、本年は学年別の開催とし、保護者・ご家族皆様に、子どもたちの作品を熱心にご覧いただきました。

1階中央にある吹き抜けのグラウンドホールには、成徳幼稚園のシンボルツリーの「くすの木」を製作し、園児がどんぐり・りんご・みかんの折り紙に自分たちの将来の夢を書いて飾りました。また、幼稚園のアニマルキャラクターのトナカイ「コメットくん」の像を3体製作しまし

た。子どもたちは優しく名前を呼んで触れたりして、大人気でした。

2階の保育室には、年長組の子どもたちが大判の画用紙に絵の具を使って描いた、ダイナミックな作品を展示し、年中・年少組は、クレヨン画、折り紙に毛糸など、いろいろな材料を使って表現した作品を展示しました。また、各学年粘土製作にも取り組み、年長組は、「将来のぼく・わたし」、年中組は、「花瓶」、年少組は、「ペーパースタンド」を製作しましたが、どの作品も個性あふれた見事な力作ばかりでした。

今回の園児の作品から、一人ひとりの成長が感じられ、保護者の皆様にも安心していただけたのではないのでしょうか。お越しいただきました皆様の、たくさん笑顔に包まれた盛況のうちに無事終了しました。



■ 学校法人東京成徳学園 企画調査室
各種 SNS アカウント



※イメージ

学校法人東京成徳学園の
公式SNSを始めました

東京成徳広報の制作、発行を担当する法人本部企画調査室で、学園公式のツイッター、フェイスブック、インスタグラムのSNSアカウントを取得し、運用を開始しました。

各SNSを通じて、東京成徳学園の各設置校に関する情報を中心に、ご紹介していきます。各SNSのフォローをどうぞよろしくお願い致します。

東京成徳広報第51号
読者アンケートのお願い

このたびは、学園広報誌「東京成徳広報」をご覧いただき、誠にありがとうございます。

今後の発行に向け、より良い紙面づくりをするために、皆様のご感想をお聞かせください。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

『東京成徳広報』に関する
アンケートにご協力ください

下記のQRコードまたはURLよりアクセスして、ご回答くださいますようお願いいたします。



<https://forms.office.com/r/BadVy75SHf>

※東京成徳学園ホームページにアクセスして、
トップページ＞東京成徳広報＞学園広報紙「東京成徳広報」
からもご回答いただけます。

皆様のご回答は、法人本部企画調査室で拝見し、今後の「東京成徳広報」の企画・制作で役立てさせていただきます。

※お寄せいただいた個人情報情報は、今後の広報誌作成の参考に利用するものであり、それ以外の目的で使用するものではありません。

大学・短期大学の就職・進路

コロナ禍における就職活動

オンラインでの就職活動

就職支援センター長 稲垣 久美子

現在4年生の就職活動は、最初から最後まで新型コロナウイルス感染症の影響を受け続けました。

学生は3年生になる春季休暇中に新型コロナウイルス感染拡大が進んだため、4月に新学期が始まった後も、キャンパスに戻ることなくオンライン生活に入りました。初めてのオンライン授業に対処しつつ、インターンシップへの応募にも苦慮するなど、手探りの就職活動を余儀なくされました。

企業は新型コロナウイルス感染が拡大する中、対面での採用活動が難しく、

インターンシップから本選考まで、最終面接以外はすべてオンラインで実施した企業も少なくありませんでした。フルオンラインでの採用活動は企業にとっても今回が初めてのことでした。

大学としての対応

大学としての対応

本学では、オンラインでの就職活動で不安や孤独感を抱える学生の就職活動を支援するため、各種セミナーの実施、役立つコンテンツの動画配信などを行うとともに、教員とキャリア支援担当職員が緊密に情報交換しながら、学生との個人面談に力を入れてきました。今後も教員と職員が連携しながら、学生一人ひとりに向けたきめ細かい支援を行うってまいります。

主な内定先 (2022年3月卒業予定者)		
2021年12月現在		
人文学部	日本伝統文化学科	Olympic、オーケー、キングラン、ドン・キホーテ、サービスセンター、ベストライフ、神奈中観光、東京千住青果 ほか
	国際言語文化学科	ブリッジインターナショナル、シュテルン、IMS グループ、フォーミュレーション I.T.S.、東京インテリア家具、日本レストランシステム、ベネッセスタイルケア、スターツケアサービス ほか
応用心理学部	臨床心理学科	ベネッセスタイルケア、スタジオアリス、IMS グループ、桐和会、愛隣会、SOMPO ケア、佐啓会、皓明会、統鶴会、同胞援護会、明善会、ライフランド、JA 都城、クスリのアオキ、ニチイケアパレス、丸昭、ライト通信、警視庁 ほか
	健康・スポーツ心理学科	ライオン、イオンリテール、IMS グループ、シノダ、ソフマップ、ニッポンレンタカーアーバンネット、渡辺パイプ ほか
子ども学部	子ども科	公立小学校、公立保育所、私立幼稚園、私立認可保育所、私立幼稚園型認定こども園、私立幼保連携型認定こども園、施設（児童発達支援施設）、私立児童クラブ、明光ネットワークジャパン、ニチイ学館、総合体育研究所、アデランス、マーキュリー、セーレン KST ほか
	経営学科	朝日信用金庫、東急リバブル、トヨタモビリティ東京、ネットヨタ東埼玉、群馬トヨタ自動車、ベネッセスタイルケア、ヤマダデンキ、ヨドバシカメラ、さなる、システム技研、大東建託、ピームス、ペルナ、ベルク、マテックス、ユナイテッド、リック、ワタナベエンターテインメント、横浜ゴム ほか
短期大学	幼児教育科	公立保育所、私立幼稚園、私立認可保育所、私立幼稚園型認定こども園、私立幼保連携型認定こども園、企業主導型保育施設、小規模保育施設、認可外保育施設 ほか

内定者インタビュー



人文学部 日本伝統文化学科
阿波連 本誠 さん

【内定先】
キングラン株式会社

■就職活動を振り返って

チャレンジ精神を発揮し、社会貢献を両立できる仕事に就くことを志望し、大学3年の6月に就職活動を始め、大学4年の4月下旬に内定をいただきました。早い時期から就職支援セミナーなどに積極的に取り組めたことが、功を奏したと思っています。人文学部の先生方、キャリア支援課の方、家族や友人たちの協力のおかげで就職活動ができたこと、感謝しています。

■コロナ禍での就職活動

元々は日本語教員やツアーガイドなどの観光・国際系の仕事を志望していましたが、コロナ禍により志望業界への就職が困難になり、悔しい思いもしました。それでも気持ちを切り替え、幅広く業界研究をしたことで、仕事に対する視野が広がるという良いこともありました。内定をいただいてから、就職活動の終わりはゴールではなくスタートだということを実感しています。立派な社会人になれるよう、卒業してからも学ぶ姿勢を取り続けたいと思います。



経営学部 経営学科
小澤 美紅さん

【内定先】
東急リバブル株式会社

■就職活動を振り返って

人と話すことが好きで、人とたくさん関わる仕事を希望しています。保険や証券、人材などさまざま検討しましたが、不動産仲介の営業こそ自分の良さを発揮し、お客様の大切な買い物をサポートできる、大変やりがいある仕事と思っています。周りに流されず、就活に取り組んできたので、就職先である第一志望の企業から、内定をいただいたときは本当にうれしかったです。

■ためになった大学のバックアップと今後の目標

就活の相談は、主にゼミの三枝先生にしていました。コロナ禍で友達に相談できない分、先生から多くのアドバイスをいただきました。あと『インターンシップ論』を就活前から受講していたことは、私が真剣に就活に取り組もうと思った理由の一つにもなっています。

負けず嫌いなので若いうちから、男性にも負けぬ結果を残すことが目標です。お客様の立場に立ち、私にお願いしてよかったと思ってもらえるよう、これからの仕事に励みたいと思います。

ひと『活躍する卒業生』

フルーツ農家転身のため地方に移住
鶴田町地域おこし協力隊としても活躍中

幼稚園教諭の経験を生かし地域と共生する
東京成徳大学の卒業生にお話を伺いました

スチューベン農家 芽実農園経営
鶴田町地域おこし協力隊

山田 園実 さん
東京成徳大学子ども学部
(2011年3月卒業)

社会で活躍する東京成徳の卒業生をご紹介します。今号は、大学卒業後に幼稚園教諭を経験し、結婚して数年後に青森県鶴田町に移住。現在、「地域おこし協力隊」として、地域の情報発信をしながら、鶴田町名産のぶどう「スチューベン」農家として活躍する山田園実さんをご紹介します。

Q、東京成徳大学に入学する前のことを教えてください

私は八丈島出身で、高校時代は吹奏楽部の活動で一生懸命でした。当時、高校吹奏楽でよく名前を知られた先生が、高校に赴任していました。生徒が少ない、小さな高校でしたが、吹奏楽部は力を入れる部活動でした。練習も1年で正月休みしかなくらいでした。

保育者を目指すきっかけは、中学の職場体験での保育園の訪問です。その頃から保育士か幼稚園教諭が良いなと思ってました。私は6歳と4歳差の弟妹のいる3人兄弟の長女で、幼い子のお世話が小さいときから好きでした。ちっちゃなお母さんとして、「ミルクをあげなきゃ」と母を真似ることもあったみたいです。「先生になりたい」という思いは高校でも変わらず、それで保育者を目指すことにしました。

子ども学部は、いろいろな大学を調べる中で知りました。その中からオーペンキャンパスに行こうと思い、上京時に開催日の近い大学何校かをはじめて志望校に選びました。高校生からすると大学生は、あこがれです。特に私は、島からなので上京だけでもあこがれる、そんな感じでした。だから、一人暮らしは不安でも、大学生活はとても楽しみでした。

Q、大学在学中の印象深いことは？

グループを作って曲を一つ決めて、それぞれ楽器を選び振り付けを考えて、みんなで演奏して発表する授業がありました。私たちはサザンオールスターズの曲を選んだのですが、自分たちで面白くアレンジしていく、それがすごく楽しかったことを覚えてます。

また学園祭実行委員もやりました。何か思い出を作りたいと参加し、友達数人と装飾係を担当しました。当時は新人が必ず作る看板があり、立体的じゃないとダメなど、決まりがある中、みんなで苦労してやりきり、「やればできる!」と自信がついたことを覚えてます。この経験は幼稚園教諭時代も役立ちました。

Q 取材前、所属ゼミの半田先生に当時を伺いました。「明るく元気で、印象に残っている学生」とのこと

半田先生にはお世話になりました。先生は私が八丈島出身と聞いてよく話



雄大な津軽富士・岩木山を背景に撮影
ご家族の笑顔が印象的でした



大学4年当時の写真(ご本人提供)
4年生も学園祭で装飾をご担当
(上) 学園祭実行委員全員で記念撮影
(下) 担当した装飾の前で



しかけてくれて、それから気軽に話せるようになり、それを理由にゼミを決めました。先生のなんでも受け入れてくれる優しい人柄に惹かれて、学年でもかなり濃いキャラクターの学生がゼミに集まっていたと思います。

卒業論文は、「八丈島出身」と話すたび「えー」という感想を聞き、「そんなに特殊なんだな」と知った経験から、自分にしかない地元を題材に、帰省時にインタビューなどしながら書き上げました。先生と相談して、卒論のコピーは役場にも郵送しました。反応は薄かったですが(笑)。でも地元にか形を残せて良かったと思っています。

**Q. 卒業してからこれまで
どのような経験をされてきましたか**

就活は、当時の住まいから近場を中心に大学に届く求人票から探し、見学して決めました。雰囲気、条件が良く、園としても大きく、きれいだったことが決め手でした。5年間、幼稚園で働き、結婚を機に退職、農業をしてみたいと

いう主人の意向を受け、その後鶴田町に来て今農業をしています。大学の勉強と全く違うことに挑戦していますが、幼稚園での経験が役立つことは結構あります。例えば「草木染め」。地域おこし協力隊の活動の一環でスチューベンの皮を使った取り組みにチャレンジしました。幼稚園の親子レクを思い出し、十数人の小学生に草木染めを体験してもらいましたが、幼稚園で働くときのようにすんなりできました。また協力隊では人前で話す機会も多いのですが、園児や保護者の前で話した経験が、今も生きていると実感します。

移住に関してはフルーツ農家に興味があるということで、東京のふるさと回帰支援センターに相談に行き、全国の情報をもらいました。地域おこし協力隊もそこで知りました。そのとき偶然青森県庁の方がいて、スチューベンと協力隊、制度を利用しながら農業研修ができることを聞きました。帰宅後、たまたま近所にスチューベンが売っていて、食べたら甘くて美味しいと感動し、制度の利用も良いなと思ったので、鶴田町に決めました。地方移住を決めた際、家族から心配の声も多くありましたが今は応援してくれています。

移住当初は、地域が閉鎖的ではないかと心配しましたが、皆さんとても

良くしてくれます。4月から生産者として収穫、販売を経験しましたが、作業全てを初心者夫婦で行うため、大変に感じる人が多いです。でも、ちょこちよこ畑を見に来ては「もうちょつとこうした方がいいよ」など、農作業のやり方を教えてくれる方がたくさんいて、すごくありがたく思っています。

今は市場や農協への出荷が中心ですが、いずれは直販がメインになればと考えています。収入面も理由の一つですが、市場への出荷は他のぶどうと並んでしまう一方で、直販であれば生産者として顔も見せることができ、自信にもなるからです。実際、今年SNSで販売を告知した後、大学時代の友達も含め多くの知人が私たちの作るぶどうを直接注文してくれました。それは本当にうれしかったです。

草木染めも今後続けていきたいです。子どもだけでなく、大人の方にも、あの布を広げるときのワクワク・ドキドキする楽しい体験をぜひしてもらい



たいです。実はお家でもできるように、スチューベンの皮を使った染色液を粉末状にしたキットを、近隣の町の企業と一緒に開発中です。

まずはぶどう農家として美味しいぶどうを作ること、いずれは品種を増やし、多くの方にまた食べたいと思ってもらえるぶどうを作っていきたいです。そして、自分の子ども、地域の子どもたちが、ここ鶴田町での暮らしを楽しんでくれるような企画や環境を作っていきたいです。

Q. 後輩へメッセージをお願いします

「つながり大切に」と書きました。大学生のときは、そんなことを考えて生活していたわけではありませんが、今になって助けられていることがたくさんあります。大学で出会った友達や先生と今でも連絡を取り合い、困ったことがあれば相談して。そんなつながりがもう10年も続いています。主人もゼミで仲の良かった友達から「絶対合うよ」って紹介された人です。東京成徳に入っていないかったら、結婚できていなかったかもしれません(笑)。

今やっていることが将来、未来につながることはたくさんあると思います。だから興味あることは、挑戦しておくことをおすすめします。ぜひ一日を楽しんで、過ごしてください。



東京成徳大学・東京成徳短期大学
2021 年度桐友祭

今年のテーマは
「New Stage」

今だからできること、桐友祭も新しいステージとして開催したいという願いを込めて

コロナ禍前と同じではないが
やっと開催できた『桐友祭』

昨年は新型コロナウイルスの影響を受け、中止という決断を余儀なくされた桐友祭でしたが、2021年度は感染対策を徹底することにより、2年ぶりに対面で開催することになりました。

10月30・31日の2日間に開催。9月末に緊急事態宣言が解除となったため、実行委員会を中心に一般来場の検討をぎりぎりまで行いましたが、再度の感染拡大を危惧し、東京キャンパス（十条）の学生と教職員、その家族に限定した開催とすることに決めました。

開催日1か月前が緊急事態宣言の解除であったため、学生たちも学園祭の準備に十分な時間を取ることはできませんでした。それでも、学園祭実行委員会や有志団体の学生は、準備や練習に精一杯取り組み、開催日

2021 桐友祭感染対策のためのお願い

今年度の桐友祭はコロナ禍での学園祭の開催となるため、ご来場いただく皆さんの感染対策へのご協力をお願いします。

- ・入り口で検温を行います。37.5度以上の方は入場できません。
- ・マスクは常に着用していただくようお願いいたします。（出来るだけ不織布マスクの着用をお願いします）
- ・手指の消毒を入場時や各ブース入場時等、都度お願いします。
- ・飲食の際にマスクを外すときは飲食をお願いします。
- ・机の本ホールなどで発表を観覧する際は、席を空けて座ってください。
- ・ごみの分別にご協力ください。

今年は多くの制限がある中での開催ですが、ルールを守って楽しい桐友祭にしましょう！



ステージでは、学生のダンスパフォーマンスやスピーチコンテストなどが行われました。またゲストに俳優の桜田通さんをお招きして、在学生に限定したトークショーも行われ、観覧した学生からはとても好評でした。

当日を迎えることができました。過去に行われた学園祭に比べると、出店から漂う食べ物や物の美味しさや匂い、卒業生と来場した子どもたちの明るくはしゃぐ声がなく、多少物足りなく感じることもありましたが、しかし、学生たちにとっては、待ち望んだ大学生活のイベントであり、皆思い思いに学園祭を楽しんでいる様子でした。2年ぶりの開催となった桐友祭は、ひさしぶりに学生たちの笑顔であふれるイベントとなりました。来年度は、以前の活気ある学園祭となることを願っています。



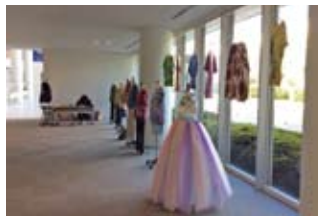
◀桐友祭運営の中心となったお二人

（写真右）
東京成徳大学 学園祭実行委員長
田島慶典さん（応用心理学部3年）
（写真左）
東京成徳短期大学 桐友会会長
高松美祐さん（短期大学2年）

田島さんのコメント
学生や教職員の皆様のおかげで学園祭を開催でき、大変嬉しく思います。私自身とても楽しかったです。心よりお礼申し上げます。

高松さんのコメント
コロナ禍で、開催できるかすらわからない状況から、開催できることを信じて準備を始め、規模縮小しましたが無事に対面で学園祭を開催することができました。

一般来場は叶わずでしたが、学生や教職員とその家族に向けて、力の込められた成果発表や展示が披露されていました。コロナ禍前と比べ、規模は小さくなりましたが、学生たちの精一杯の準備を実感する学園祭となりました。





延期していた体育祭・球技大会・文化祭を統合し「SEITOKU FESTIVAL」を開催。桐蔭祭は2日目から幕を開けました。本年度のスローガンは、コロナ禍の困難を乗り越え、明るい未来を創ろうという生徒たちの想いを込めて、『雲外蒼天』となりました。



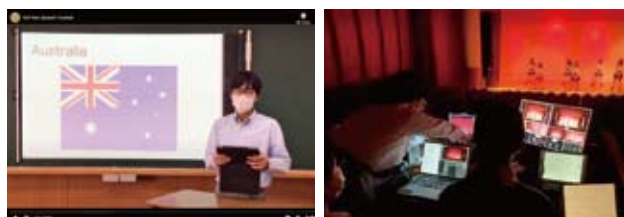
(右上) 書道部による書道パフォーマンスでは、見事な作品が披露されました。

(左上) 見ている側の心も躍る息の合ったダンスが文化祭を盛り上げました。

(下) 制限のある中でも、練習に励み披露された演奏はとても素敵でした。



配信イベント「桐蔭祭@LIVE」を行い、軽音楽部やダンス部などのステージ生中継や生徒作成の動画上映など、コロナ禍で学校全体が一体感を感じる機会が減る中、学年を超えるつながりができました。今後も ICT 活用の成果を発揮し、新しい学校行事を創造します。



(右上) YouTube を使用して、ステージのプログラムを各教室へ生配信する生徒会。

(左上) 英語のプレゼンテーションを事前に収録。オンデマンドで閲覧できます。

(下) 新しい文化祭の形として、リアルタイムの配信を教室で楽しみました。



東京成徳大学深谷高校の桐蔭祭は、生徒会主催の学校行事として、生徒全員が互いに支え合い、協力しながら手作りしています。コロナ禍でも「できない中で何かできることを探す」「できないことから新しいことを見出す」という姿勢で、皆取り組みました。

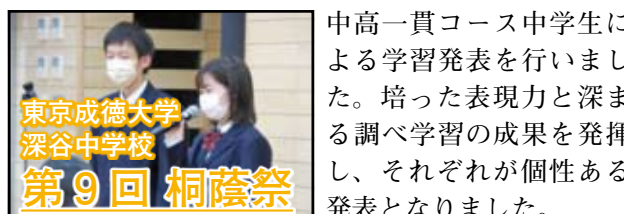


(右上) 360度展開されるVRゴーグルを使った脱出迷路ゲーム。

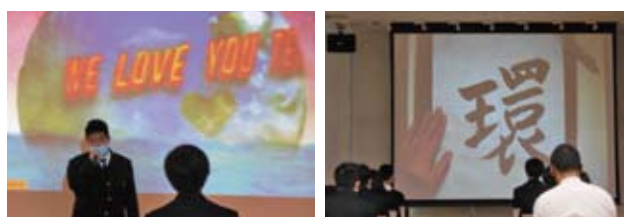
(左上) 某有名テーマパークにも引けをとらないクオリティのアトラクションも。

(下) ダンス部のステージは、全員の色が出るよう自分たちで選曲と振り付け。

※上記写真は制作した動画からの抜粋。こちらの動画は高校HPでご覧いただけます。



中高一貫コース中学生による学習発表を行いました。培った表現力と深まる調べ学習の成果を発揮し、それぞれが個性ある発表となりました。



■ 各校の文化祭実施日

- ・東京成徳大学中学・高等学校（中高一貫部）
9月28・29日（HPでオンライン桐蔭祭を配信）
- ・東京成徳大学高等学校（高等部）
10月29・30日（HPに当日のレポートを公開）
※「SEITOKU FESTIVAL (10/28～30)」の2、3日目に開催
- ・東京成徳大学深谷中学
11月5・6日（HPに当日のレポートを公開）
- ・東京成徳大学深谷高等学校
9月11・12日（HPに当日の様子を動画で公開）

中学・高校各校の文化祭も工夫を凝らして行われました。新型コロナウイルスの影響を受ける中、各校それぞれが工夫して文化祭を開催しました。

2021(令和3)年度 クラブ活動等 大会成績 (2021年4月～12月)

東京成徳大学			
男子バスケットボール部		硬式野球部*	
第70回関東大学バスケットボール選手権大会	2回戦敗退	千葉大学野球連盟 2021年度春季リーグ戦 3部	2位
第97回関東大学バスケットボールリーグ戦 2部	10位 (2部残留)	千葉大学野球連盟 2021年度秋季リーグ戦 3部	6位
女子バスケットボール部*		ダンス同好会	
第55回関東大学女子バスケットボール選手権大会	2回戦敗退	第33回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)	参加発表部門 出場
※主に千葉キャンパス(八千代)で活動していた課外活動認定団体(部・サークル・同好会)は、関東大学バスケットボール連盟2部リーグに所属する男子バスケットボール部を除き、2021年度をもって活動停止となります。			
東京成徳大学高等学校			
男子サッカー部		ラクロス部(中高女子ラクロス)	
第100回全国高校サッカー選手権大会東京都大会 Bブロック	ベスト16	2021年中高女子ラクロス春季関東特別大会	3位
女子バスケットボール部		第19回中高女子ラクロス秋季関東大会(オータムカップ)	優勝 (全国出場)
令和3年度東京都高等学校女子バスケットボール春季大会	準優勝 (関東出場)	水泳部	
第75回関東高等学校女子バスケットボール選手権大会 Aブロック	ベスト8	令和3年度東京都高等学校選手権水泳競技大会	
令和3年度東京都高等学校総合体育大会	3位	男子 1500m自由形	5位(高1)
令和3年度東京都高等学校バスケットボール選手権大会	準優勝 (全国出場)	女子 100mバタフライ	6位(高2)
SoftBank ウインターカップ2021 / 第74回全国高等学校バスケットボール選手権大会	ベスト8	令和3年度東京都高等学校新人水泳競技大会	
男子 200m個人メドレー	5位(高1)	女子 100mバタフライ	3位(高2)
バトントワリング部		女子ソフトボール	
第41回バトントワリング東京都大会 コンテストの部		令和3年度東京都高校総合体育大会	ベスト16
学校部門/高等学校(バトン編成)	東京都知事賞 / 関東大会推薦	男子テニス部	
一般部門/U-18(バトン編成)	関東大会推薦	第1回 東京都高等学校新人テニス大会(団体の部)	ベスト16
第56回バトントワリング関東大会 コンテストの部		第46回東京都私立中学高等学校テニス選手権大会(団体の部)	ベスト16
学校部門/高等学校(バトン編成)	千葉県知事賞 / 全国大会推薦	女子テニス部	
一般部門/U-18(バトン編成)	全国大会推薦	第61回東京都高等学校テニス選手権大会(団体の部)	ベスト16
第49回バトントワリング全国大会		第1回 東京都高等学校新人テニス大会(団体の部)	ベスト16
学校部門/高等学校(バトン編成)	金賞	第46回東京都私立中学高等学校テニス選手権大会(団体の部)	準優勝
一般部門/U-18(バトン編成)	大会出場 / 優秀賞	卓球部	
Japan Cup 2021 マーチングバンド・バトントワリング全国大会	準優勝	令和3年度東京都高等学校春季卓球大会	男子学校対抗 ベスト16
陸上競技部		令和3年度東京都高等学校総合体育大会	男子学校対抗 ベスト8
第74回東京都高等学校陸上競技対校選手権大会	※関東出場	令和3年度東京都高等学校新人卓球大会	男子学校対抗 6位
女子 円盤投げ	4位(高3)*	バドミントン部	
ハンマー投げ	5位(高3)*	令和3年度東京都高等学校バドミントン新人大会 東ブロック	男子団体 ベスト16
男子 三段跳び	3位(高3)*	女子団体	ベスト16
走り幅跳び	8位(高3)*	報道委員会・放送部	
第73回東京都高等学校新人陸上競技対校選手権大会		令和3年度第68回NHK杯全国高校放送コンテスト東京都大会 朗読部門	決勝進出(高3)
女子 400mハードル	6位(高2)		
ハンマー投げ	7位(高1)		
東京成徳大学深谷高等学校			
サッカー部		弓道部	
第64回関東高等学校サッカー大会埼玉県予選	ベスト16	令和3年度関東高等学校弓道大会埼玉県予選	女子団体 ベスト16
第100回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県大会	ベスト16	令和3年度埼玉県高等学校遠的選手権大会	女子 4位(高3)
高円宮杯JFA U-18 サッカーリーグ2021 埼玉 S1リーグ	4位	2021年度全国高等学校総合体育大会弓道競技埼玉県予選	男子団体 9位 男子 9位(高3)
パワーリフティング部		令和3年度県民総合スポーツ大会兼高等学校弓道新人戦	女子団体 優勝
第39回全日本高等学校パワーリフティング選手権大会埼玉県予選	※以下全員、全国出場権獲得	令和3年度埼玉県高等学校弓道選手権大会	女子団体 5位
男子 59kg級	優勝(高3)、10位(高3)	卓球部	
66kg級	準優勝(高3)	令和3年度関東高等学校卓球大会埼玉県予選	男子学校対抗 ベスト16
74kg級	優勝(高2)	令和3年度全国高等学校総合体育大会卓球競技埼玉県予選	男子学校対抗 ベスト16
第39回全日本高等学校パワーリフティング選手権大会	男子 66kg級 5位(高3) 74kg級 準優勝(高2)	2021年度埼玉県ジュニア卓球選手権大会兼全国高等学校選抜卓球大会埼玉県予選	男子学校対抗 10位
第82回埼玉県パワーリフティング選手権大会 高等学校の部		男子バドミントン部	
男子 59kg級	10位(高1)	令和3年度県民総合スポーツ大会兼高等学校バドミントン新人大会	男子学校対抗 ベスト16
66kg級	6位(高1)	写真部	
74kg級	優勝(高2)	第40回埼玉県高等学校写真連盟写真展	優良賞(高2)
女子 43kg級	優勝(高1)	第38回埼玉県高等学校総合文化祭高校写真展	優良賞(高3) 奨励賞(高3:1名、高2:2名)
47kg級	優勝(高1)	書道部	
63kg級	準優勝(高1)	第59回埼玉県硬筆中央展覧会	特選賞(高3)
団体戦	3位		
剣道部			
第66回埼玉県剣道大会	女子 5位(高1)		
東京成徳大学中学校			
女子バスケットボール部		男子テニス部	
第60回東京都中学校総合体育大会バスケットボール大会	ベスト16	第46回東京都私立中学高等学校テニス選手権大会(団体の部)	ベスト16
令和3年度東京都U15バスケットボール選手権大会	ベスト8	弓道部	
ラクロス部(中高女子ラクロス)		第15回東京都中学校弓道団体選手権大会	男子団体 入賞(関東出場) 女子団体 入賞(関東出場)
(東京成徳大学高等学校のラクロス部参照)			

表彰・受賞のご紹介

東京消防庁王子消防署より感謝状

東京成徳短期大学は、東京都消防庁より救急に関する知識技術の習得に努めるなど応急救護の普及に貢献したとして、東京消防庁王子消防署より感謝状が授与されました。

例年、幼児教育科では1年生を対象に、前期講義「幼児教育基礎演習」内で、保育者として必要な救命に関する基礎的知識と技術の修得を図ることを目的に、東京消防庁王子消防署に協力を依頼し、普通救命講習を行っています。



令和3年10月18日、代表して木内学長が表彰を受けました。

幼児教育基礎演習における普通救命講習の様子



今回の感謝状授与は、この長年にわたり学生に対して救急救命講習の受講および本学の防火災害訓練を行ってきたことをご評価いただいたものです。

今後とも、東京成徳短期大学では継続的に救命に関する知識、技術の習得に取り組んでまいります。

学校保健功労者表彰

東京成徳大学深谷高等学校に在職する坂本咲子教諭は、養護教諭制度80周年を記念し、学校保健功労者として文部科学大臣より表彰を受けました。

この表彰は、長年学校保健の普及と向上に尽力し多大な成果をあげた養護教諭および養護教諭経験者を文部科学大臣が表彰するものです。詳細は、文部科学省報道発表（文部科学省HP）をご覧ください。

日本ヒューマン・ケア心理学会論文賞

東京成徳大学の石村郁夫准教授（応用心理学部臨床心理学科）は、本学大学院博士後期課程修了生の阪無勇士さんとともに、「第4回日本ヒューマン・ケア心理学会論文賞」を受賞しました。

黒田定男元大学事務局長が瑞宝小綬章を受賞

黒田定男元大学事務局長・元理事・元監事は、令和3年秋の叙勲において、文部科学行政事務功労により瑞宝小綬章を受賞されました。

学園人事（令和3年7月～12月）

採用

職員		教員		所属	氏名	配属・役職
深谷中高	大学・短期大学	深谷中高	大学			
青木 一夫	富岡 周平	鈴木 いく子	大野 謙一	荻原 令	湯 立	上原 紗綾子
事務長補佐	キャリア支援課員	教務課員	教務課員	専任講師	臨床心理学科助教	国際学部国際学科助教

職員		教員		所属	氏名	配属・役職
深谷中高	大学・短期大学	深谷中高	大学			
林 宏修	西野 有希	名古屋 和宏	酒井 啓	中村 智枝	渡邊 博	阿部 直子
事務長補佐	総務課員	総務課主任	教務課主任	総務課主任	八千代事務部主任	専任講師

訃報

海保 博之 名誉教授・学術顧問

元学園理事、元東京成徳大学長



【写真】2016年度大学案内より転載

令和3年8月9日ご逝去、78歳。

平成18年、筑波大学を定年退官後、人文学部福祉心理学科長・教授として着任し、応用心理学部長、副学長などを歴任されました。

平成25年から第3代学長を務め、先頭に立って大学をけん引し、応用心理学部開設や健康・スポーツ心理学科新設など多岐にわたり、大学ならびに学園の発展に大変ご尽力いただきました。

海保先生のご貢献、ご業績を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

なお、海保名誉教授は、生前最後の日をもって従四位に叙され、瑞宝中綬章が追贈されています。

このたびのご受章の栄誉に輝かれましたこと、これも長年海保先生が全身全霊をかけて教育、研究の発展のために尽力された賜物と存じます。心より敬意を表します。

東京成徳大学・東京成徳短期大学では、2025年の学園創立100年を迎えるにあたり、ブランド価値向上の一環として、ブランド・ステートメントを策定しました。
学園創立以来大切にしてきた「成徳」の精神を土台とすることで、本学園にとって大きな意味を持つブランド・ステートメントとなっています。

私たちは約束します。

ブランド・ステートメント

多様性の中で共生し、
新たな自分を発見するとともに、
自らの信念をもって
未来をデザインする人材を育成します。



ブランド・ステートメントの
コンセプトムービー (YouTube)

動画の閲覧は
右のQRコードを
ご利用ください。



グローバル化が加速する現代社会では、人種や国籍、宗教、性別、価値観などの多様性を受け入れ、必要な助け合いをしながら生きていく共生を、学問や経験を通して学ぶことが大切です。

この学びや経験を通じて、これまでの殻を打ち破る新しい自分の使命や役割を探り当て、確固たる自分自身の信念のもと、自分の未来、自分たちの社会の未来を描き、切り拓いていく人材を、東京成徳では育成します。



学校法人 東京成徳学園	https://www.tokyoseitoku.ac.jp/	
東京成徳大学大学院	https://www.tsu.ac.jp/gra/	電話 03-5948-5161
心理・教育相談センター	https://www.tsu.ac.jp/center/tabid/210/Default.aspx	電話 03-5948-5162
東京成徳大学	https://www.tsu.ac.jp	
東京キャンパス (十条)		電話 03-3908-4530
千葉キャンパス (八千代)		電話 047-488-7111
東京成徳短期大学	https://www.tsu.ac.jp	電話 03-3908-4530
東京成徳大学中学・高等学校		
中高一貫部	https://www.tokyoseitoku.jp/js/	電話 03-3911-2786
高等部	https://www.tokyoseitoku.jp/hs/	電話 03-3911-5196
東京成徳大学深谷中学・高等学校		
中学校	https://www.tsfj.jp	電話 048-573-1784
高等学校	https://www.tsfh.jp	電話 048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	https://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind/	電話 03-3911-6337
東京成徳スイミングスクール		電話 03-3914-2383
学校法人 東京成徳学園 法人本部企画調査室	〒114-8526 東京都北区豊島 8-26-9	TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500 東京成徳広報 第51号 2022年1月発行